

沖縄総合事務局長 様
沖縄総合事務局開発建設部長 様
港湾空港指導官 小野正博 様
那覇空港港湾整備事務所長 様
港湾計画課長 様

泡瀬干潟を守る連絡会
共同代表 小橋川共男 漆谷克秀
沖縄県沖縄市字古謝 1171-3 コーポ MK 1階
連絡先 前川盛治 (泡瀬干潟を守る連絡会・事務局長)
携帯:090-5476-6628

泡瀬埋立予定区域 (1区) の環境総合調査を認めることの要請

私たちはこれまで、数回、1区の調査を要請してきたが、国 (沖縄総合事務局) は、私たちの要請を認めませんでした。

ところで、今、国・県は泡瀬埋立の変更手続きを進めているが、この事業は、前の事業が高裁判決で「経済合理性がない、公金を支出するな」が言い渡され、否定されたものであることから見れば、新たな事業であり、新たな環境影響評価 (方法書、準備書、評価書の手続き) を実施すべきですが、国・県はそれを実施せず、今回の申請にあたっては、「環境保全に関し講じる措置を記載した図書」を提出しただけです。しかも、その図書には1区埋立地のことについては、何も記載していません。

この埋立区域 (1区) は、私たちがこれまで指摘してきたように、泡瀬干潟の重要スポットであり、生物多様性の宝庫です。その具体的な事例は次の通りです。

1. 新種ホソウミヒルモの第1発見場所である。
2. 新種カラクサモク、リュウキュウズタの発見場所である。
3. 新種ヒメメナガオサガニの発見場所である。
4. 貴重種ジャングサマテガイの生息地である。
5. 水産種スイショウガイ (泡瀬干潟では絶滅したと思われていたが、再発見された) の生息地である。
6. 豊かな海草藻場がある。サンゴが生息している。(別添資料参照)

以上の通り、埋立地 (1区) は、生物多様性の宝庫であり、世界の宝ですが、今度の変更手続きでは、上に上げた事実が何も記載されてなく、保全についても何の記載もありません。

昨年、日本が議長国になって、生物多様性条約締約国会議が開催され、愛知目標が採択され、海洋の保全、干潟の保全、絶滅危惧種の保全が、世界共通の目標であることが確認されています。また、環境省は、昨年9月、泡瀬干潟をラムサール条約登録の候補地にも選定しており、今度の事業にあたっては「埋立の回避、埋め立て面積の縮小、泡瀬干潟の保全」の意見書を提出しています。

以上挙げた状況を見ると、今回国・県が埋立にあたって、埋立地 (1区) について、何もふれず、保全も示さないことは、生物多様性条約締約国会議の議長国の責任も放棄する、国際的な信義にも反することです。

私たちは、埋立予定区域 (1区) の環境総合調査を実施し、保全措置を国・県に要請したいと思っています。そのためにも、下記を強く要請いたします。

記

1. 私たちの、泡瀬埋立予定区域 (1区) の環境総合調査を認めること。

泡瀬干潟・浅海域のサンゴ、海草藻場 泡瀬干潟を守る連絡会のまとめ(事業者資料より)

1. サンゴ。1区(96ha)の区域のサンゴの移植(事業者公表資料によるまとめ)、面積は㎡

サンゴの種類	事業者公表				連絡会計算		
	1区のサンゴ(アセス書、平成12年3月)	1区のサンゴ面積(平成17年7月12日発表)	1区のサンゴ面積(平成20年、1回目移植時発表)	1回目移植した面積(H20年10月、11月)	2回目移植した面積(H21年6月)	移植したサンゴ面積(2回の合計)	1区内、残っているサンゴ面積
コノハシコロサンゴ	被度10%未満、 保全の対象ではない。		234	14	21	35	199
リュウキュウキッカサンゴ		116	105	12	26	38	67
ヤッコアミメサンゴ		179	154	9	18	27	127
オヤユビミドリイシ		28	22	15	7	22	0
ホソエダミドリイシ		114	140	14	7	21	119
スギノキミドリイシ		434	321	81	52	133	188
合計(㎡)		871	976	145	131	276	700

1区のサンゴ面積、H17年7月12日発表は、連絡会のサンゴ調査結果の記者会見(H17年5月18日)後の事業者の発表

2. 海草藻場。1区・2区・航路・泊地等の海草藻場 平成14年12月16日、「中城湾港(泡瀬地区)公有水面埋立事業にかかる海草移植計画」による。単位はha

	1区	2区	泊地	航路	防波堤	失われる藻場
大型海草藻場	16.5	1.5	6.3	17.7	0.6	
小型海草藻場	4.9	16.6	0.1			
ガラモ場	23.5	17.2		2.2		
合計	44.9	35.3	6.4	19.9	0.6	55.9

航路は、規模(幅)が200mから40mになったので、航路で失われる藻場面積は、19.9の5分の1、約4ha 新沖縄市案で失われる海草藻場は、2区を除いた
 下記は、連絡会などが撮影した1区のサンゴ、2005年 海草2002年 西防波堤のヒメマツミドリイシ産卵の写真は2007年6月



1区のスギノキミドリイシ
一部移植、まだ残っている



1区のリュウキュウキッカサンゴ
一部移植、まだ残っている



西防波堤のヒメマツミドリイシ
読売新聞記者撮影 産卵



1区の海草 右は移植で剥ぎ取られた跡
残った海草は生埋めになった

